

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 12 章 13-17 節 (新約聖書 85 頁)

さて、人々は、イエスの言葉尻を捕らえて陥れようとして、ファリサイ派やヘロデ党の人を数人イエスのところに遣わした。彼らは来て、イエスに言った。「先生、私たちは、あなたが真実な方で、誰をもばからぬ方だと知っています。人に分け隔てをせず、真理に基づいて神の道を教えておられるからです。ところで、皇帝に税金を納めるのは許されているでしょうか、いないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか。」イエスは、彼らの偽善を見抜いて言われた。

「なぜ、私を試そうとするのか。デナリオン銀貨を持って来て見せなさい。」彼らがそれを持って来ると、イエスは、「これは、誰の肖像と銘か」と言われた。彼らが、「皇帝のものです」と言うと、イエスは言われた。「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」彼らは、イエスの答えに驚嘆した。

神のもの

イエスは病にある人、身体の不自由な人、精神の不安定な人、徴税人、娼婦、異邦人など神に呪われ、汚れた、罪人と呼ばれる人たちに歩み寄りました。彼らと食事をし、彼らの家に泊まりました。ところがそれがユダヤ人の指導者たちから忌み嫌われ、命を狙われる結果になったのです。

彼らは「皇帝に税金を納めるのは許されますか」と罷をかけます。当時のユダヤは古代ローマ帝国の属国でした。ローマ帝国はユダヤ人から人頭税という税金を徴収していました。税を納めるべきだと言えば、民衆の反感を買います。納めるべきでないと言えば、帝国への反逆者として捕らわれるのです。

どちらに答へてもイエスは窮地に立たされます。しかしイエスは彼らの下心を見抜き、デナリオン銀貨を持って来させ「だれの肖像と銘か」と問いかけます。彼らが「皇帝のものです」と答えると、イエスは「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と言うのでした。

皇帝のものとは集められた税金のことです。神のもの、神に返すとは集められた税金が神様の御心に適って使われることです。目に見えるお金、土地や建物も、何のためにあるのか、神様の御心に適って用いられることが大切なのです。だから自分に与えられたものは、本来神様のもの、お互のものなのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、わたしたちの日々の喜びも悲しみも、すべてあなたから与えられた学びと経験になります。どうか自分に与えられたもの献げ、あなたの御心に適い、あなたのもの、お互いのものとして用いられますように導いてください。またインフルエンザなど感染症が広がっています。どうかひと時でも早く回復、終息の時を迎えられますように、私たち自身もあなたに与えられた身体を大切にします。またいまだ愚かにも争いを続ける人々には悔い改めの心を与え、特に嘆き悲しむ人々の祈りを省み、共に支えとなり、ひと時でも早くあなたの平和に与らせてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びの時を過ごさせてください。主イエス・キリストによつてお願ひいたします。アーメン